

授業に役立つ総合学習の手引き

平成11年度中学校教師海外研修に参加して



JICA LIBRARY
1192262 [2]



国内国
J R

JICA
国際協力事業団





はじめに

国際協力事業団（JICA）は、政府開発援助（ODA）のうち「人づくり，国づくり，心のふれあい」を合い言葉に，研修員の受け入れ，専門家・青年海外協力隊の派遣などの「人を通じた国際協力」を中心に実施する特殊法人です。

日本は今では世界有数の ODA 供与国となりましたが，第 2 次世界大戦後しばらくの間は，被援助国として諸外国の支援により復興を果たし，その後高度経済発展を遂げるに至りました。今の日本の繁栄も開発途上国をはじめとする他国との相互依存の上に成り立っています。現在，世界最大の援助国となった日本には，開発途上国のニーズに応え，世界の平和と発展に積極的に貢献していくことが求められており，人を通じた国づくりを支援している JICA の責務はますます高まっています。

JICA は現在，国民の皆様にも私どもの活動に「理解，支持，参加」をいただくため，国民参加型の国際協力事業の推進と，その一環としての開発教育支援に取り組んでいます。

そういった活動のひとつとして，全国の中学校において開発教育や国際理解教育に取り組んでいらっしゃる先生方や，開発途上国の抱える問題に関心を抱いている先生方を対象に，開発途上国における経済，社会，教育の実情や，JICA の実施する国際協力の現場視察を目的とした研修旅行を実施しています。

今回の研修では，ヴィエトナム12名，フィリピン10名，ラオス12名，合計34名の先生方に，平成11年7月下旬から8月上旬にかけて，12日間の研修に参加していただき，開発途上国および国際協力に対する見聞を広めていただきました。

この度，研修に参加された先生方のご協力により，研修で得た経験にもとづいて行った授業実践例を冊子としてとりまとめました。この冊子が開発教育や国際理解教育に関心のある方の参考となり，今後導入される総合学習の一助になれば幸いです。

平成12年3月

国際協力事業団

国内事業部長 今津 武

CONTENTS

はじめに

第1章 研修を生かした授業実践例

ベトナム研修の成果を生かした授業実践	倉 秀彦	4
フィリピンから南北問題を考える	小池 真澄	8
「生きる力」学習指導案	福田 清志	15
「幸せってなに？」矛盾から入る国際理解	堀 純児	30

第2章 研修レポート

〔ベトナムコース〕

ベトナムの学校	大野理智子	36
JICA のプロジェクトと青年海外協力隊など ODA の実態と感想	小野寺新吾	38
ベトナムの日常生活	千葉 和子	41
研修に参加して	畠山 祐光	44

〔フィリピンコース〕

研修レポート	権瓶 伸夫	48
(コラム) フィリピンノホスピタリティー	毛内 雪絵	55

〔ラオスコース〕

日常生活について	横山真智子	57
----------	-------	----

参 考 資 料

事前研修日程	60
コース別日程/参加者氏名 (ベトナム)	61
コース別日程/参加者氏名 (フィリピン)	63
コース別日程/参加者氏名 (ラオス)	65
開発教育関係団体及び教材紹介	67
JICA はこんなこともしています	72
JICA 国内機関問い合わせ先	73
地域国際交流協会等一覧	74



1192262 [2]

研修を生かした授業実践例



第1章

ベトナム研修の成果を生かした授業実践

HIDEHIKO KURA

倉 秀彦

理 科

札幌聖心女子学院中学校

【授業の目的】

*自分の思い込み(=価値観の固定化)によって、ものの見方がせばめられていることが多い。国際理解教育を推し進めていくうえで、この思い込みの存在に気付くことは大切である。その気付きから、次に価値観の多様性を受け入れることをすすめていけたらよいと思い、この授業を計画した。

【授業展開の概要】

対象生徒：中学3年生(1組・2組の22名)

実施科目：社会福祉学習・シミュレーション

(毎週木曜・6時限)

場 所：学習ホール

<内容>

1. 「思い込み」について考えるゲーム：「息子よ息子」(時間 10分)

(出典 "地球市民を育む学習" (明石書店) P77~)

- *生徒は2人1組となり、机と椅子が必要。グループ同志はお互いの考えが聞こえないように、少し離れて座る。
- *指導者は、下のストーリーを行ごとに切り離したもの(6枚)を順序をばらばらにして封筒に入れ、各組に配る。

一すすめ方一

路上で交通事故がありました。

タンクローリーが、ある男性と、彼の息子をひきました。

父は、即死です。

息子は、入院しました。

彼の身元を、病院の外科医が確認しました。

外科医は、「息子！これは私の息子！」とおのきながら叫びました。

*生徒は、順番の入れ替わった6枚の紙片を受け取り、意味の通るように(自分で説明出来るように)並べ変える。出来たら指導者に説明し、正解となったら他のグループに教えてはいけない。もし、間違ったら改めて並べ変える。

*指導者は、まだ検討中のグループに何が難しいのか、発言を求める。

*生徒の集中の度合いを見て終了する。

一ねらい一

*私たちの世界観がいかに既存の固定的価値観に左右されているかを知るためのシンプルだが有効なアクティビティーである。正解(外科医が、母親である)を見つける組もあるだろうが、解決できなかったり、何かの理由をこじつける場合が多く、正しい答えに驚きと戸惑いを感じる。この効果はあくまで、思い込んだり、限定されたものの見方をしている自分に気付くことにあるので、正解が導けなかった生徒へのケアが大切であり、あくまで導入としての利用が望ましい。

2. ベトナムってどこ?どんな国? (アンケート集計結果の説明) (時間 10分)

*夏休み明けに、中学3年生全員(74名)にベトナムに関する3つの設問からなるアンケートを実施した。その結果をまとめたプリントを配布した。自分の答えと全体の答えを比較して、お互いのベトナムに関する知識を交換しあった。

アンケート内容

- (1) ベトナムってどのあたりにある国でしょうか? 下から選びなさい。
 ・北アメリカ ・南アメリカ ・アジア
 ・アフリカ ・ヨーロッパ
- (2) ベトナムの国の位置は、どのあたりだと思いますか。白地図を塗りつぶしなさい。(白地図は省略)
- (3) 『ベトナム』というと、どんなイメージがするのでしょうか。自由に記述しなさい。

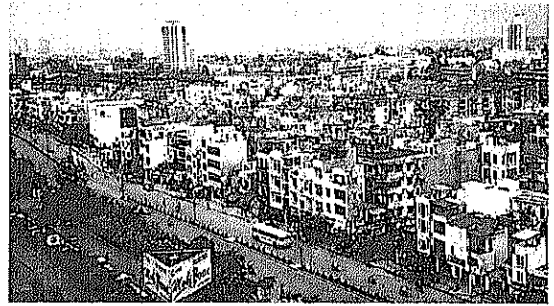
—アンケート結果 (回収71名分)—

- (1) (正解) アジア 62名 (87%) /
 アフリカ 6名・わからない 3名
- (2) 正解した生徒 14名 (20%) / その他タイとベトナムを一緒にした生徒 4名 (のべ25%)
- (3) ベスト10 (複数回答あり)
 - ①ベトナム戦争 24名
 - ②ドラマ「ドク」(香取慎吾主演) 21名
 - ③貧しい国 12名 暑い 12名
 - ⑤肌の色が黒い 7名
 - 食べ物美味しい 7名
 - ⑦人が多い 4名 交通量が多い 4名
 - 美人が多い 4名
 - ⑩バナナ 3名

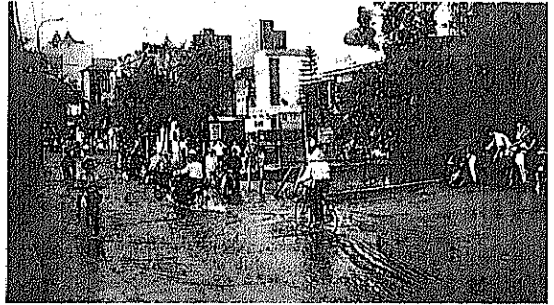
3. ベトナムの写真を見よう! 感じたままを表現しよう! (時間 20分)

- *ベトナムで撮ってきた写真を実物投影機を通してスクリーンに投影する。
- *1枚の写真につき5名の生徒を指名し、次々に写真を見た感じを発表する。(間をあげずにあてる。同じ感想はなるべく言わないようにと事前指導を入れておく)

—写真の内容 (一部)—



①街の様子 (JICA 事務所からのハノイ市街)



②雨季〜スクール直後〜



③貧しさの為置いていかれた女の赤ちゃん



④ベトナムの中学生

*その他、田園の風景、交通渋滞、保健センター、乗り合いバス、中学校の教室など、のべ15枚ほどの写真を見せた。

4. ベトナムの印象はどのように変わったか？ (ふりかえり) (時間 10分)

*一通りの写真を見たあと、第一印象がどう変わったか。なぜ変わったのかをまず各自で考えるようにさせる。その後、となり同志で考えを交換しあう。みんなの前で発表する。(分かち合う)

最後に、社会福祉学習ノートに授業の感想を書き、明日までに提出するように指示をして終わる。

【生徒の反応・感想】

1. (ゲーム) 大いに盛り上がり、どんどん新説(こじつけが多いが)を出してくるが、正解に早く到達したグループには、帰国子女が含まれていた。固定的価値観があまりないのか、いともあっさり正解の考えを導き、かえって周りの友人たちが苦勞しているのを見て、びっくりしたという感想を書いたのが印象的であった。

2. (アンケート結果) 結果のプリントに大騒ぎしながら見入っていたが、ベトナムの位置を正しく書いていた生徒になぜ知っていたのか聞いたところ、本校の高校で今年導入したタイ体験学習に関心があり、その隣の国だと印象があったのだという。イメージのベスト10の中で、ドラマ「ドク」の印象が主演したアイドルとともに強いのも、中学生らしいところだろう。

ちなみに本校は中高一貫の学校で、私の教えている高校2年生に同じアンケートをとって見たところ、イメージベスト10の2位にベトナム(枯葉剤・奇形児含む)のことがあがっていた。全体的に“貧しさと遅しさを同居した国”というイメージで受け止めているようだった。

3. (写真) 写真を見せる前に、今回私が行ったのはハノイとその近郊で都会が主だったことと、たった12日だけで国の全体を見られはしないということを強調した。

写真を見た感想は「思っていたより街が近代的だ」

「赤ちゃんを置いて行くなんて許せない」「私たちよりまじめそう!」「とても私には暮らせない」「教室が汚い」などストレートなものだった。見たあとで子供を置いていかなければならない現実や中学生の勉強(将来)に対する強い思いなど、現地で聞いたことを説明した。皆、真剣に聞いていた。

4. 第三世界ともいわれている発展途上国の一つベトナム。あまり、今まで関心がなかった国が少し身近に感じられるようになったという感想が多かった。ただ、社会主義の国に対する援助の在り方について難しさを感じたという私の旅の感想に対して、多少違和感を感じた生徒もいた。「資本主義の考え方を押しつけるのは良くない」という主張に対して、「そんなこといっていたら、いつまでも貧しさから脱出できない」というのだ。この考え方はいかにも日本人の典型的な考え方だと痛感した。

本校には前述のタイ研修のほか、姉妹校にもフィリピン・韓国研修があり、それに参加した生徒の報告を中学1年のときから聞いているので、アジアに目を向けることの多い学校ではあるが、社会主義国であるベトナムのことを題材にした授業は今までなかった。国際理解についての授業は社会科や英語科などでも行なわれているが、自分達の頭と体を使ったアクティビティを含むことで、一層身近なものとなるであろう。合わせて体験をふりかえり、個人→隣り同志→グループ・全体に感じたことを分かち合っていくことができれば、体験が深められ経験となっていくことであろう。

1) 社会福祉学習：本校のカリキュラムにあり、週1時間各自の選択したグループで学習している。

“ピアホイ”について

ヴェトナムコースに参加した先生方が帰国後、自主的に持ち回りで編集を担当している会報誌。先生方の近況報告や、国内で発見したベトナム料理店の情報、研修旅行のウラ話などと共に、授業の実践の様子などを情報交換しています。せっかく研修で現地の様子を体験してきても、日本に帰ってくるとばらばらになってしまいます。情報や新鮮な経験がそのまま引き出しの奥にしまいこまれてしまわないためにも、国内各地に点在している先生同士でつながりを保つために、楽しい会報誌を作っています。



ピアホイの創刊に思う 倉 秀彦

皆さん、お元気ですか。とうとう、皆さんとつくる新聞“ピアホイ”の第1号ができましたので、お届けします。そもそもこの新聞機の中で、千葉先生と山山先生の話の中で出てきたら倉が手紙を頂き、賛同して、名譽ある第1号の発行。今回は、全員の方から原稿をいただいています。仲間の皆さん、ありがとうございます。なんとか正直いって大変はっています。今後、状況に応もあるかと思いますが、お互いの交流をさらに広げていきたいと考えています。今後とも、どうぞ宜しくお願いします。

この辺で、私の近況報告をします。北海道が一番早く夏休みが終わりました、うちのうご前期末考査を終えて、成績処理をしているとご沢と3学年の担当ですので、なかなか大変です。生徒処理の台間に編集しました。(どこか、へまをして先日創刊準備号で予告していました、9月2日なんとか終了しました。教頭会の方々はほんの2~3分くらい授業のクラスの全体を見たようです。忙しそうだったけど、生徒も楽しんでたね!!」だ一応授業の流れを書いておりますが、改良の余地あり。

天Fの?!
北 海 道 報 新 聞

根谷 新聞に!

(2月) 1999年(平成11年)8月24日(火曜日)

海外で貴重な体験

以 前から毎年海外協力隊のボランティアをしてきたんです。今回、その希望がかなって、夏休みの12日間ベトナムへ行って来ました。国際協力準備団(JICA)の派遣で、北海道、東北地区の中学校教師12人が参加しました。最も驚いたのは、経験から出陣までの正しいケアができていないことです。例えば、阿蘇では妊婦が勝手に子供を産んで、その場で捨てて行ってしまうんです。ベトナムの女性たちに安全な出産をしてもらうためにも、正しい産科教育を実践していく必要がありますね。また、現地で中学校を2校視てきました。子供たちの英語は日本と違ってしゃべれないのに、子供たちも取り巻く環境が凄まじいんです。子供たちが使うノートや机などのハード面と、現地で活躍できる人材のソフト面の充実も大切だと思いました。

これが問題のこの字直と記事です。すこし願ひすね。→地方(十勝)のパーシにのりました。(カラー)記事が正確ではないヒに、不満はありますが、うちのタシナも両親も大喜びでした。

その② 9/12, 18 と北海道国際理解教育研究大会
北見大会にベトナム報告の提言をしてきました。
Mr. 倉田にも再会、もちろんあの「アサヒ」で!! 緊張しました!!

第1章 研修を生かした授業実践例

フィリピンから南北問題を考える

MASUMI KOIKE

小池 真澄

社会科

新潟市立松浜中学校

<はじめに>

この実践は、世界地理の最後、東南アジアの学習の中で、フィリピンだけを取り上げたもので、1年生で実施した。生徒の実態をふまえて、なるべく易しい授業にしようという心がけた。しかし、南北問題を実感でき、世界の不平等に理由があること、それを解決する努力が世界で行われていること、また、自分自身にも、その力があることが理解できるように考えたものである。

<1時間目>

(1) 授業内容

フィリピンを眺めて

(2) 授業の流れ

フィリピンで撮影したビデオを視聴し、わかったこと、疑問に思ったことをメモするように指示した。ビデオの内容は以下のようなものである。

- ① 渋滞する道路、日本車の多く走る道路
- ② 洪水
- ③ 大聖堂での結婚式
- ④ ジープニー、LRT、国鉄
- ⑤ スモーカーマウンテン、仮設住宅
- ⑥ スクオッター
- ⑦ 学校
- ⑧ コレヒドール島
- ⑨ 女性訓練センター

生徒の気づいたこと及び疑問は、以下のようなものであった。

- ① 日本がお金を出して建てた設備がたくさんあった。
- ② 日本製の車がたくさん走っていた。
- ③ 日本人教師が来るだけで歓迎する。
- ④ 日本人の墓や慰霊碑があった。砲台があり、激戦地という感じがした。
- ⑤ 第2次世界大戦の大砲があった。
- ⑥ 日本語の上手な人がいた。
- ⑦ 風景が日本に似ている
- ⑧ 英語も話す。
- ⑨ 教会で結婚式をする。
- ⑩ 国鉄のわきに多くの人が生活している。危ない。
- ⑪ 学校は生徒の数が多
- ⑫ 貧しそうなお家と服装
- ⑬ 優しい感じのする人が多い。子供同士が仲がよい
- ⑭ ジープの改造車がある。
- ⑮ 交通量が多い。
- ⑯ 市場には人が多い。
- ⑰ 女性の校長先生。先生もみんな女性。
- ⑱ ゴミは燃やさないで、積んで置く（ダイオキシンの関係らしい）

- (1) なぜ、国鉄の隣に家があるのか
- (2) なぜ日本がお金を出すのか
- (3) フィリピンと日本はどんな関係か
- (4) なぜ私鉄と国鉄で乗る人に違いがあるのか
- (5) なぜゴミの山はあるのか
- (6) なぜ日本の工場が多いのか

- (7)なぜテレビは、英語とフィリピン語なのか
 (8)フィリピンは豊かなのか、貧しいのかわからない
 (9)フィリピンの学校はどんななのか

<2時間目>

(1) 授業内容

フィリピンの歴史

(2) 授業の流れ

生徒の気づいたことや疑問は、代表的なものを印刷して配り、今後の学習の見通しを簡単に示した。

この時間では、なぜキリスト教なのか、なぜフィリピンでは英語を話すのか、日本とはどんな関係なのかを、教科書、資料集を使って調べる、もしくは、過去の学習を参考に予想するように指示した。

①なぜキリスト教なのか

- ・キリスト教は世界的な宗教だから。

- ・キリスト教の国と関係が深いから
- ・キリスト教の国に支配されていたから

②なぜ英語を話すのか

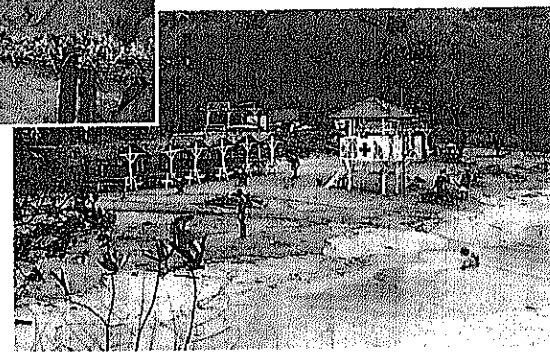
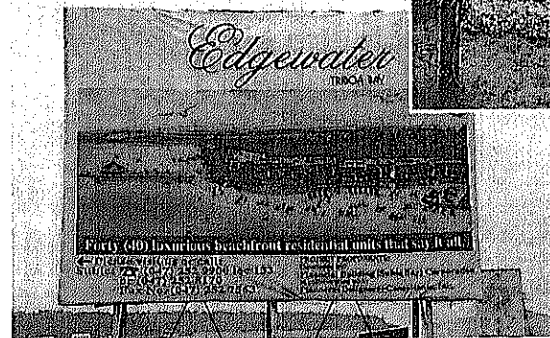
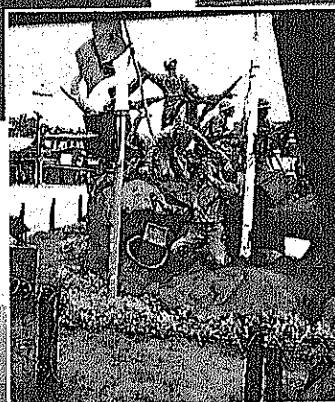
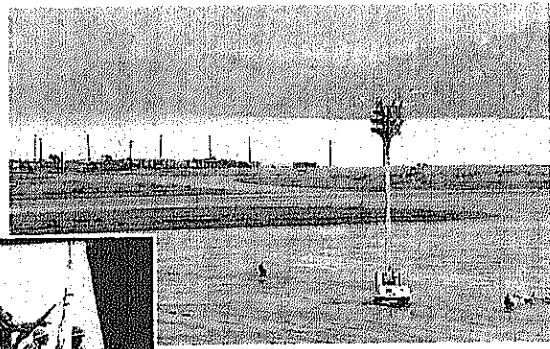
- ・英語を話す国によって支配されていた。
- ・アメリカの植民地だったから
- ・英語を話せると得だと考えているから

③日本とはどんな関係か

- ・戦争をした関係
- ・バナナによるつながり
- ・企業が進出する関係

以上をまとめて

スペイン植民地時代（ラブラブを教材に）、アメリカ植民地時代、（米軍基地の現在も写真等で示す）日本植民地時代（第2次世界大戦のオブジェの写真等を使い、パターン死の行進等を説明）があったことを説明した。



米軍基地の跡地（中央の写真は第二次大戦のオブジェ）

< 時間目 >

(1) 授業内容

フィリピンの経済状況

(2) 授業の流れ

貧しいのか、貧しくないのかわからないという疑問を取り上げた。まずは学校の写真を見せ、気付いたことを発表させ、なぜそうなっているのか考えさせた。

①学校を見て

- 教室に電気がない。→ お金がない。
- 机と椅子が一緒。 → お金がない。
- 生徒数が多い。 → 学校が少ない。→ お金がない

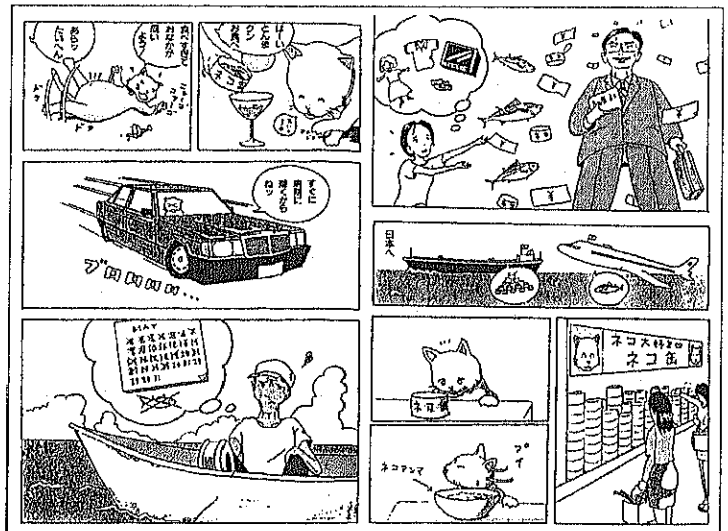
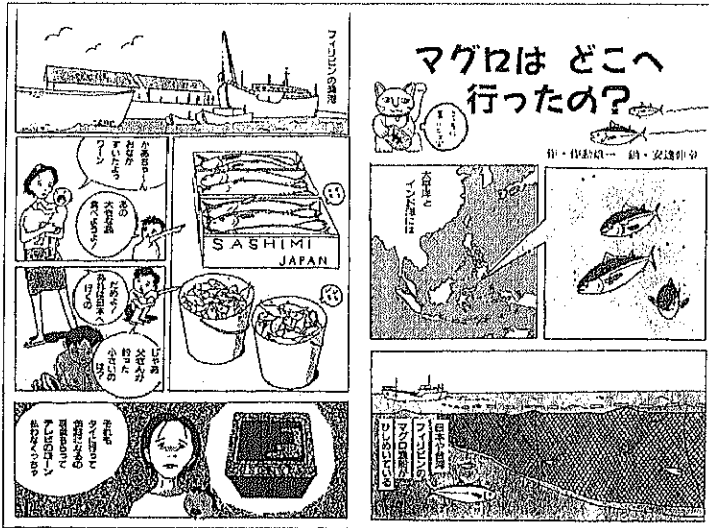
女性教師。

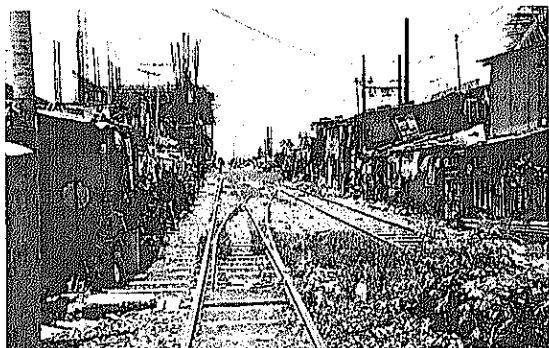
→ 給料が低い

(教師側で説明した。)

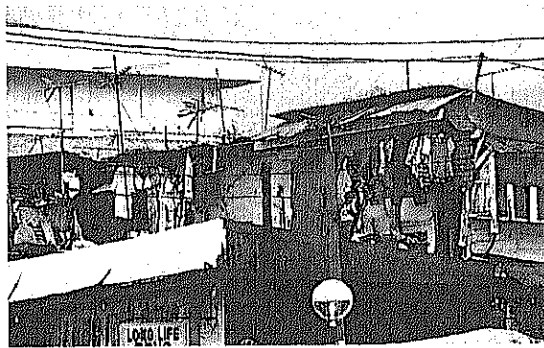
②スコッターの住居、中級の住宅、高級住宅街のゲートを見せ、フィリピンの経済状況を一口にまとめて言うとうなるかを尋ねた。答は「貧富の差が激しい。」

③貧困はどこから生まれるのか予想するよう指示。同時に梨の木舎の「アジアを食べる日本のネコ」より「マグロはどこへ行ったの？」(漫画)を提示し、予想ができない人は、これを参考に考えるように指示した。答を提出させて、授業を終えた。





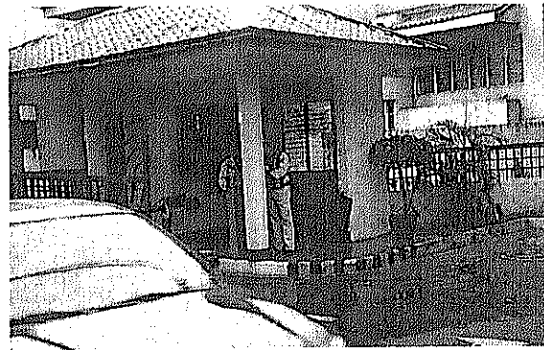
スクォッターの住まい



町の住宅



スクォッターの住まい



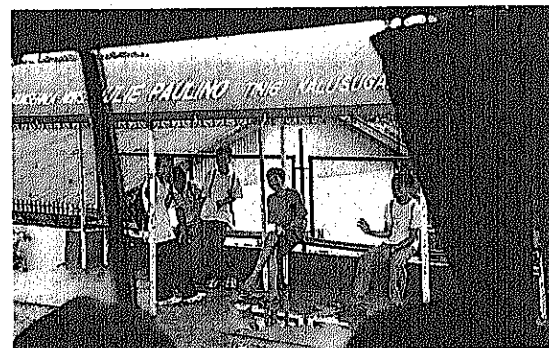
高級住宅街の入口



学校の先生



授業の様子



中間層の子ども



中級の住宅（農家）

<4時間目>

(1) 授業内容

貧困はどこから来るのか

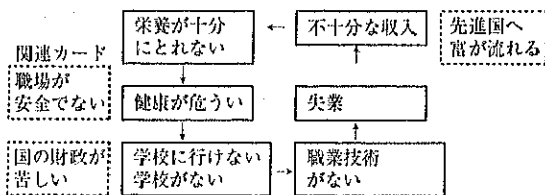
(2) 授業の流れ

ア. 前回の答を印刷して、生徒に示す。答は以下のようなものである。

- ①働く場所がないから
- ②食べるものがないから (マグロは日本に行ってしまうから)
- ③貯めたお金も、テレビや車を買ってしまい、使ってしまうから (多国籍企業の存在が良くない。)
- ④お金のある国が自分勝手だから
- ⑤給料が安いから
- ⑥服装などが汚くて会社に採用されないから
- ⑦資格を取るなどの努力をしないから
- ⑧働く気がないから
- ⑨日本のネコがわがままだから

⑦については資格を取るための学校が少ないこと、⑨についてはどんなときに働く気になれないかを尋ね、落ち込んでいるときや体の調子が悪いときと言う答を導き出し、開発途上国の責任で、貧しいのではないことを示した。

イ. 「貧困はどこから」のアクティビティを行う。貧困カードには、関連カードをつきさせた。



上は、典型的な解答例である。

ウ. 貧困の悪循環は、どのようにして断ち切ることができるか考えるように指示し、答を提出させて授業を終えた。

<5時間目>

(1) 授業内容

貧困を断ち切る世界的な努力

(2) 授業の流れ

ア. 前時の解答を印刷して生徒に示す。以下はその代表例である。

- ①学校を作る
- ②多国籍企業は製品を売りつけない
- ③食べ物をどこかの国が寄付する
- ④お金のある国は、自分のことばかり考えない
- ⑤日本のネコに贅沢をさせない
- ⑥家族を増やさない
- ⑦我々が募金する

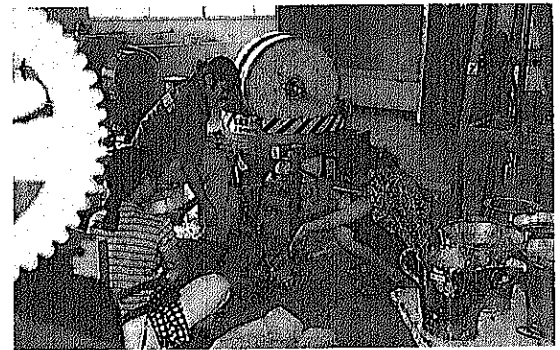
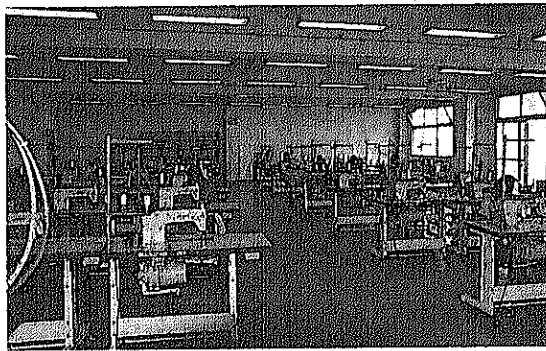
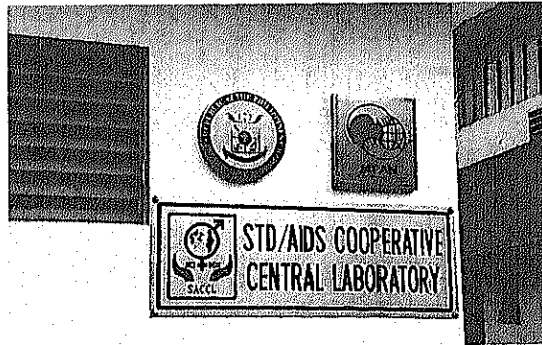
イ. ODA, NGO について説明

ODA——フィルライス、女性訓練センター、エイズプロジェクト、青年海外協力隊等をパンフレットや写真で説明

NGO——シャプラニール等をパンフレットやその製品で説明し、新潟市内でこの製品を扱っている店の紹介もする。

ウ. VTR「ODA って何だろう」を視聴する。





<6時間目>

(1) 授業内容

世界の貿易の不平等

(2) 授業の流れ

貿易ゲームを行い、その後、感想を書かせる。感想は印刷して生徒に示し、現実世界との類似を指摘した。生徒の感想は以下のものであった。

- ・貿易ゲームは現実社会とほぼ同じ。
- ・外国とのやりとりは難しい。
- ・技術やお金のある国（アメリカや日本のような先

進国）は金の亡者のようだ。

- ・アメリカや日本のような先進国は、意地悪で腹がたった。
- ・最初からお金のない国は、いくらがんばっても金持ちにはなれない
- ・もともと持っているものが違うと、ものすごい差がでる。
- ・同じ個数の製品を作っても、作るものによって大きな差がでる。
- ・世界は貧富の差がありすぎる。
- ・最初から道具のない国は、道具をそろえるのが大

変

- ・道具を買うのに、全財産を使ったのは馬鹿だった。
- ・貿易を行うのは、作ったりすることが大変だし、チームワークが大切だ。
- ・最後には借金まで作ってしまい、貿易の大変さがわかった。

り優れた点に切り込むことができなかった。

<おわりに>

生徒は、開発途上国の現状が、決してその国の努力不足でないこと、世界が相互依存の中で成立していることは、実感として感じる事ができたようである。それと同時に開発途上国に対する差別的な見方も、少しは薄れた。しかし、多くの点で、不十分で反省することの多い実践になってしまった。以下は実践の反省点である。今後は、この反省をもとに、さらに深みのある実践を展開していきたいと考えている。また、今後ある関連する授業の中で、不十分だった部分を補完するような活動を組んでいきたいとも考えている。

- ・アクティビティを多くしたことで、生徒は興味を持って学習したが、思考する機会が少なかったため、生徒が認識を変えたり、世界の平和について考えたり、努力していこうとする意欲を十分喚起できなかった。
- ・富の偏在は、その理由が開発途上国にあるのではないことを漠然と示したにすぎず、歴史的な背景や現在の世界の仕組みに大きな原因があることを理解させるには不十分だった。また、所得の格差をデータで示す時間も確保できなかった。
- ・富の偏在が平和を脅かすことについて触れることができなかった。
- ・地域に青年海外協力隊に参加していた方がいたことを生徒から知らされたが、実際に学校に来て頂き、話を伺う機会をもてなかった。
- ・討論を組織する授業にはならず、個人が抱いた重要な疑問や認識を全体のものとする事ができなかった。
- ・フィリピンに住む方の具体的な姿の見えない実践だったため、開発途上国の人々の努力や日本よ

「生きる力」学習指導案

KIYOSHI FUKUDA

福田 清志

数学科

加賀市立山代中学校

日 時 1999年11月22日 5校時

場 所 加賀市立山代中学校 1年3組

指導者 ファシリテーター 福田清志

サポーター ラオス派遣教諭

山田 達哉 深堀 良平

横山真智子 森 祥江

徳竹 秀彦

1 主題

人生は選択（自己責任）～世界（現状）を見つめ、
自分（心）を見つめる～

【答えで始まる、答えのない授業：イン加賀ネット方式】

2 目的

自分の考えを持ち、意見を主張し、それが保証されかつ他人の選択も尊重される集団、世界を目指して、自分の生き方を問い、仲間とともに考え、みんなで参加する切り捨てのない、生きる力を導く授業の実践を目的とする。

3 指導にあたって

① 主題設定について

「生きる力」をキーワードに教育改革が叫ばれている昨今、中でも総合的学習と題していわゆる平和、人権（ジェンダーを含む）、環境、などの地球的規模の諸問題にも即対応できる資質が、国際社会の中の日本人として求められ、総合学習の中でも国際理解にまつわるものが注目を集めている。そこで、開発教育（自称）「地球が生きるための教育」を切り口として自分なりに生きる力を考えてみた。

② 生徒（教育）の実態について

世の中、上記の流れの一方で、今の情報化社会（いつでも、どこでも、誰でも）のケータイ文化全盛の中にあって、陳腐化されつつある知識の量をそして処理能力を、いまだに詰め込み教え込む教育も現存する。さらには、その上にあぐらをかいた教師や親の一部は、常に生徒、子どもの一段上に立ち、切り捨てられる生徒を義務教育の名の下で黙認し、その上迷惑がり、落ちこぼれの烙印を押し、公然と差別を行う姿もいまだにある。その差別に気づきも、罪の償いもしない。そんな中で不登校、いじめ、様々な問題行動を子どもが発信し、それらを抱え学校現場、家庭内は今、右往左往の毎日である。

先進校と言われる学校ですら、授業技術研究のみに力を注ぎ「生きる力」の解釈を、教え方研究の視点から、学ばせ方研究の視点に姿を変えただけで、つまり手段方法を変えただけで、知識、理解のみを重視、何をどれだけ知っていて、処理する能力、速さのみを問われていること自体、教育改革の名の下で何ら本質的改革がなされていないのが社会の現状である。青少年凶悪犯罪には本人及び家庭の問題とし目を背け、大学生の学力低下には中教審あげて対策をとり、もうけがすべてだとする社会の価値観も手伝って、義務教育の名で、お金に結びつかない人間に烙印を押し差別する。

③ これからの教育（授業）への提言

『受動化』（ルールや答えのある生き方）に慣らされた生徒にチャレンジの場を！

『既製化』（マニュアル化された生き方）に溢れた社会に創造の糸口を！

『孤立化』（やさしさを忘れた生き方）された仲間意識に協同化の機会を！

そこで今、教育の原点を考え、本来どうあるべきか、根本的な視点で、人格の形成に帰る。**人格の形成=人生を選択する力**との仮説を立て、それをひとりひとりに問う場を設定し、「生きる力」の授業を試みた。人間の可能性を引き出す場を授業と位置づけた。

この授業形態には教科書や模範解答はなく、予習や復習はもちろん不要である。一人一人が自分の心と対話し、生きてきた経験と、今の現状をもとに、自主的、主体的に考え、悩み選択を迫られ、さらに他人の意見選択からも学ぶあう、互いの生き方が尊重される時間、場である。もちろんその責任は自分が負う。すべての人間が平等で、各自の選択が尊重されそれに各自が責任を持つ。例えば悪いが？まるで競艇場の光景そのものである。

そこには答えも、能力差もない。自分が選んだ道、その考え行動こそが自分の人生、人格そのものである。誰も如何なる人も否定はできない。選択の場や機会を多く生徒に与えること、人生の選択課題を投げかけることが、人格の形成を支える、我々大人、教師の唯一の責務だと考えます。

「学校は考えさせてくれる場ではなかった。」と人生の岐路（就職、結婚、出産、病气、事故）のたびに後悔を重ねる現代人（私の家を訪れる今までの卒業生）に、学校とは、友とともに悩み、学んで変わる場であることを、そして人生の選択の力を身につけるところだと世に提言することが、これからの義務教育に携わる一人として、最大の役目だと考えます。

④ 義務教育への提言

そもそも強制される義務教育において、点数、順位をつけ、能力差（努力差）を前提にすること自体、そ

れを黙認しつづけること自体、人権問題でもあると考えている。

義務教育は、国家、企業の利益追求のためだけの道具ではないはずで、高等教育ならまだしも、義務教育は（自称）『人間として生きるための教育』であると、しかもそれが世界共通の義務教育であると考えます。

人間として気がつかなくなったり、知らなければ、人を傷つけたり、自分が苦しんだり、さらに自他共に命を削られたり、その尊厳が侵される、そんな題材や場面を生徒に投げかけ、教師も親も大人が共に学び、生きる力、人間の可能性を引き出す、いや奪われた生きる力を呼び起こす作業が、義務教育の使命だと考えます。

大人や社会の、独りよがりな押しつけが、子どもの生きる力を奪ってしまったという認識、そして、もうけにつながる知識の詰め込み教育、しかも公教育が、生徒を時として犯罪者にしてしまうことが多いと言う事実、さらにその罪を現場の教師や大人社会が一切負わず、問われもしないこの現状を、小、中学校15年（海外3年）の教員生活の中で強く感じてきました。子どもを未熟者として、モノ扱いしてきたのは大人です。

⑤ 教育者（大人社会）の責務

傷つくのも人間、傷つけるのも人間、命を持った人間のその尊さを、命の連続や連鎖に対する認識を欠いた今の物質文明社会、自然から隔離された中で育った子どもたち、いわゆる、傷つかない心の持ち主（学んで変わることに、可能性を引き出してもらえなかった人間）が多く、事件、惨事を引き起こしていることが物語ります。それも世界中でそして先進国と言われる国々で、特に日本で、あのサリン事件、神戸の少年事件や校門圧殺事件が、その最たるものです。

あの犯罪者たちが服役中に、人（本）とのふれ合いの中で、傷つく心を持った人間として目覚めることができる、その可能性があるという事実は、誰が犯罪者を育てたか、教育とは、教育者の責務とは何かを、明確に示しています。私も犯罪者の一人です。

地球（開発途上問題）を考えるこの教育活動が、本来の人間のあり方生き方を考える、義務教育へと変革、発展することを願っています。その一つの方法、手段として、この世界（現状）を見つめ、自分（心）を見つめる授業形態、教育活動を提唱します。

私は押しつけはしません、あくまでも命ある限り、生き生きと、輝く瞳の生徒と共に、成長する自分であり続けたい。魅力ある教師（学校づくり）人間であり続けたいと思う。

「人権の最大限の尊重を基礎として、人間中心の開発ならびに参加型の社会のみが、持続可能かつ公正な開発をもたらしうることを再認識する。」

（ユネスコ 成人教育に関するハンプルク宣言）

4 本時の授業

① これまでの流れ

四月に教え子の突然の自殺をきっかけに、このクラスで「命」について、人間とは何かをテーマに、命の連続、命の連鎖、そして命の尊厳について、学級通信を中心に学び合いを続けてきた。二学期になりこの学習形態で今までに「人間とは」（学校とは）（社会について）「生きるとは」（大切なもの）「愛すること」（信頼されること）など、数々の問題をテーマにワークショップ（三つのアクティビティ）を重ねてきた。

時には教科指導の中にも（数学、体育など）、また生徒指導の問題にも（合唱コンクール、遅刻など）取り入れ意見を持つこと、主張しあうこと、選択し行動することを多く経験してきた。以上のような経緯で活発で、明るく活動的なクラスである。

クラス目標「一人もかけちゃいかん、みんなで支えられ、1年3組楽しい居場所」

② ねらい

『FROM LAOS TO JAPAN』と題し今回は、「豊かさ」をテーマに先進経済大国の日本の現状と、最貧国と言われるラオスに学ぶべきものを考え、豊かさの視点、自分の生き方を確認する場としたい、もちろん答

えはない、生徒が自分で自分の答えを見つけだす。

③ 準備

フラッシュカード、ラオス紹介（派遣教師）

資料（別紙） ワークシート、作文（3年道端佑子）、生徒感想、事例集

④ 展開

配時	活動、アクティビティ	反応、ワークショップ	留意点、その他
10 つ か む	①アイスブレイキング「ワールドクイズ」 「四つの選択なせこ」	A, B, C, Dを選択 ・アラブのナツメヤシ ・海外旅行どの地域へ ・物乞いにお金を渡す *日本は豊かか国である A そう思う B 思わない C どちらとも言えない D ?	・四つのコーナーに分かれて意見を聞く ・主体的に意見を持ち主張し、まわりの意見も尊重する（人権意識を持つ）
15 深 め る	②ブレインストーミング 「私の意見」 [ラオス紹介、作文発表]	自分の意見を発表する ・今日本（ラオス）に生まれて身の回りでやばいこと（その理由、原因） ・国、衣食住、芸能文化 ・ラオスのエッセイ作文	・自分の問題として自由に考え批判せず、質より量で板書する ・ラオス派遣教師からの紹介や作文を読む
25 ま と め る	③ランキングシート 「九箇の改善方法」 [グループ協議]	優先順位を選択する ・日本の子どもが、もっと元気（豊か）になる方法（9箇の選択） ・発表する、意見を聞く	・意見を出し優先順位にダイヤ型に並べる ・国の違い、共通点に目を向ける ・黒板にカードを貼る
	感想、まとめ（ワークシート）	「豊かさ」について意見をまとめる （時間があれば①*で確認）	・人間の原点、本来の生き方の視点で「豊かさ」を考える

⑤ 視点

「豊かさ」について、自分の考えを持つことができたか。

⑥ 参考資料、協力者

国際協力事業団、青年海外協力協会、開発教育協議会（各支部、資料）

1年3組学級通信「命」～人間とは何か VOL. 2～、個人研究録「阿羅漢」VOL. 1.2.3

JICA 北陸支部, JICA 東海支部, 青年海外協力隊駒ヶ
根訓練所
1999年 JICA ラオス派遣教師 (山田達哉団長以下12
名)
生徒指導研究会「オジンガー Z」(会長 河端努, 事務

局 河畑光一, 山代中学校内)
*総合教育研究所「イン加賀ネット」(代表福田清志,
阿羅漢 加賀研修センター内)
(*人間とは何かを求め, 独自の教育情報を世界に発信
するネットワーク)

ワークシート

【名前 】

1. 四つの選択 (A そう思う, B 思わない, C どちら
とも言えない, D わからない)

【理由】

2. プレインストーミング

① [テーマ中での問題点] ② [①の理由, 主な原因] ③ [②の改善方法]

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

3. ランキングシート

になる 9 個の方法

(ダイヤモンドシート)

1 *一番必要な方法

2

7

9 *すればいい方法

4. 今回のテーマ について感想,
意見, これから考えたいこと

(一言アドバイス)

資料

1. 1999年 JICA 中学生エッセイコンテスト 応募作品

3年 道端 佑子

「自分がとても恥ずかしい」

ある日, 私の数学担当の先生が急に「俺はラオスに
二週間行く。」と楽しそうに言いました。なんでもボ
ランティアのようなものらしいのですが, 私はほんと
に楽しいのかなと, あとで自分が, 恥ずかしくなるよ
うなことを, その時, 心の底で思っていました。

そして, 先生が帰ってきてからの第一声は, 「ラオ
ス楽しかった。」というもので, いろいろな話をしてく
ださしました。それらの話を聞いて一番心に残った
のが, ラオスの国の人々の優しさです。なにしろ葬式
では, 村中の人々全員が道端に集まって, 死者に別れ
を告げるというのです。これは死者にとって最後の,
そして最高の幸せだと私は思いました。

きっと日本のどこかには, 人が一人ぐらい死んでも,
なにも変わらないと思う人が, 私も含めて大勢いるで
しょうが, ラオスの人たちにとっては, 一人でも死ん
だら, 大切な命が亡くなったと, みんなが思い, だか
ら最後にみんなで別れを告げるのだらうと思います。

ラオスの人々は、きっとやさしさに包まれているから、日本みたいに、人をいじめることや、まして自殺などきっと起こらないし、知らないでしょう。

私は、人間は命を無駄にしてはいけないと思います。それは、すべての人を不幸にするものだからです。

今日本は、自分の利益のために、何事も勉強、勉強で、頭の悪い子、いい子などと子どもが差別を受けています。人はみんな幸せを求めて生きているはずなのに・・・ラオスの学校は、受験がなく、きっと本当の人間として大切なものを教えているように思えました。そのような先生の話の聞いているうちに、私は自分で自分が恥ずかしくなりました。先生は、ラオスで本当に人間として大切なことを、目で見、耳で聞き、鼻でラオスの風の匂いをかぎ、体全体で感じたんだと思います。

私は、先生が自分で進んでラオスへ行き、ラオスの村の人々と交流したことを聞いて、すごいと思いました。私もぜひ先生のように外国へ行き、いろいろなことを自ら体験したいと思いました。本当は、こう思うのが誰でも当たり前なのかもしれませんが、私は最初にそう思えなかったので、恥ずかしい人間だと思いました。

今の世の中、心のつめたい人が多いから、心のあったかい人のいる国が、一番りっぱだと私は思います。物に恵まれている私たちに、貧しい国と呼ばれるラオスは、日本に足りない、忘れられた人間の本当の幸せを教えてくださいました。

日本も世界一、心のあったかい、やさしい国になれるように、私はこれから自分なりに、自分のできることを精一杯やって、何事にも挑戦し、頑張っていこうと思います。

2. 総合学習 生徒感想文「命」を学んで

～すべての学問の原点～

【人間とは何か】VOL2「命・いのち」

(学級記録文集)を読んで

1年3組の私達は、本当にいい勉強をしたと思う。数学や国語とか教科書で勉強するより、もっといい勉強だと思う。数学とか勉強するくらいなら、命の勉強

をもっといっぱいしたかった。もし学校にきていない人でも、命の勉強ならできるし、この勉強をすると、誰でも正直な気持ちになれると思う。だってこのクラスの人、ほかの教科はふざける人も、命の勉強になると、みんな真剣にこんなにすごい作文を書けるようになる。命の勉強には、正直な気持ちを出せる力と、みんなをまじめにする力と、だれでもべんきょうできるちからをもっている、などのすごい力を持っている。私は、この勉強をしたことに関して、いろいろな人にこのことを教えて、今の大人のように、心が汚れた社会をなくすように頑張りたい。(松山明菜)

きっと将来役に立つだろう、いろいろ役に立つだろう。みんな命を学んだら、きっといろいろわかるだろう。みんながよくなったら、世界で一番心のきれいな人がいる国になるだろう。(小林知世)

この「命・いのち」を勉強して、今まで感じなかったことを学んだ。命の大切さ、小さなことから人を殺してしまうことになる、いじめなどから、自殺する人がでる。自殺する方も、命の大切さがわかっていないけど、いじている方は、もっとわかっていない。人の命がどんな大切かわかっていない。いじめられている方は苦しい。いじている方は楽しく思っていると思う。いじめられている人が自殺したら、いじめていた方は逆に苦しく思う。いじめられている人の気持ちを思うのが遅い!! 死んでからじゃ遅い!! いじめなどが起こるから、苦しむ人がでて、学校がおかしくなるんだと思う。(秋元敏男)

よかった・・・よかった。先生と「命」を学べて。最初は乗り気じゃなかったけど、やってるうちに、大人にわかっていそうで、わかってないこと、知らないことを知らせてあげようと思って、真剣に取り組んだ。大人が気づいて気持ちが変わるなら、何だってできる。これからも、この問題をみんなと考えていきたい。

(谷口勇貴)

命は何だ。命は物じゃない、金でもない。どんな命もゴミじゃない、いらぬ命は・・・あってはいけない。

人間とは何だ。そんなことは、人に聞いてはいけないことなんだ。自分で探すことなんだ。探せ、探しまくれ!! さあ!! さあ!! 人によって見つかる、命の答えは違う。だから、いつまでもさがしつづけるのだ!!

(金藤浩史)

私は、命というものを考えたこともなかった。でもこうしてみんなと話し合ってみたら、いろいろな人の意見が聞けて、本当に「今、自分が考えるものでは・・・」と思えてきた。はじめ、命というものは、さっぱりわからんし、そんなこと考えてたこともなかった。今は、だいたい命というものが、何となくわかったようで・・・やっぱり全く何なのかわかりません。でも学んでみて、何が必要で、何が必要でないかは、わかった。この本を開くときには、きっと何かを求めているときだと思う。

(横谷知春)

3. 総合学習 イン加賀ネット方式 事例集

(感想)

(感想)

この三つのゲームは、先生が私達に意見を持ってもらいたかったのだらうと思う。まあこれからの世の中、自分の意見を持たないといけないのかもしれない。

(川林)

ゲームをしたらなんか・・・人の性格が現れるような気がした。考える力がない人は、その力がついたと思います。自分も少しついたと思います。(數下)

自分の意見を言うのは、結構難しかった。でもいつもこんな勉強ならいいなと思いました。(宮越)

ゲームをして、なぜ命について考えてきたのかわかった。いつもこんな勉強ならいいと思った。(原)

おもしろかった、こんな授業をする先生が増えればいいと思った。(古河)

(事例集)

「答えで始まる、答えのない教授法」～あらゆる指導者のための、グループをいつでも何処でも発問一つで、心を育てる、生きる力をつける総合学習(イン加賀ネット方式)～

イン加賀ネット＝人間とは何かを求める方々に、独自の情報を世界に発信するネットです

実践記録集

【イン加賀ネット】VOL1「総合学習」

《指導案、テーマ別設問集、ランキングシート事例集》(例、抜粋)

【設問事例】

【テーマ例】

・人間とは

・人権

・平和

・環境

・やさしさ

・強さ

・愛

民族(人種)差別:「ヨルダンでは妻は4人だが一人がいい」

貧富(飢餓)差別:「努力すれば誰でも食べられる」

男女(兄弟)差別:「男性の水着姿も取り上げるべきだ」

学歴(年齢)差別:「高校はでた方がいい」

社会(政治)差別:「フランスでも死刑制度を入れるべきだ」

障害(病人)差別:「病気になる損である」

【ランキングシート事例】

「愛される人間になる9個の方法」

- (A)・笑う・いやがることをしない・親切にする・自己中をやめる・自分の知識を与える・しっかりテキパキする・人に役立つことをする・明るく楽しくする・自慢を控える
- (B)・カッコつける・風呂はいる・髪を染める・物を贈る・歯を磨く・眉を剃る・電話をかける・ストーリーする・おそう

(参考)【イン加賀ネット】VOL2「人道教育」VOL3「生体医学」～情報提供中～

MESSAGE FROM LAOS TO JAPAN

＝感動の旅、思いを筆に＝

合掌

首都ビエンチャンから150km離れたある村で、その村中の人々が道端に集まっての弔い、薪での火葬、炎の中で横たわり両腕を挙げる死者の丸焼き？に出会いました。8割近くが今なお電気も水道もない村の生活です。バンビエンという街で滞在の夜、村の長老を中心に、30名余りの人々が食堂に集まり、我々日本人を歓迎する儀式を受けました。草花で飾りつけられた祭壇（テーブル）を中心に、お祈りに続き清めの杯、さらにお呪いの木綿の糸を、村人一人一人から手首に結ばれ、互いの出会いを祝い永遠の幸せを願うセレモニーです。見知らぬ我々を一人一人が心からの大歓迎でした、さらにアルコール度45°の酒や、大きな瓶で回し飲むドブクソそして机一杯の料理でもてなしを受け、夜遅くまで輪になり踊りあかしました。

次の日、近くの村の小学校で子どもたちと交流会をしました。雑草生い茂る校庭、馬小屋のような校舎、土間に長机と長椅子だけの教室、教科書はもちろん紙、鉛筆もなくボロボロの服の中には裸足の子どもたちが我々を物珍しそうに待ち受けていました。色々と交流し最後に私達一人一人の名を刻む果樹を、校庭の周りに子どもたちと共に記念植樹をしました。作業を終えご褒美のアイスキャンディに群がる姿、あどけない元気いっぱいの子どもの瞳は世界共通です。

ラオスの報告として時代のギャップや物資の不足、生活の不自由のみを語る気にはなりません、人間としての生き様に深い感動を覚えました。

あの村のやさしい一人一人の笑顔、そんな村人たちに囲まれ人生を終えた人は本当に幸せだろう。受験地獄やもちろん競争原理のない教育を受けている子ども達の伸び伸びした姿、そしてまわりの皆で支え合いながら暮らし、自然の恩恵を受け、家族との愛情に満ちた生活を送っている子どもたち。自分の足元を振り返ると、教育者としての自分そして日本の在り方に疑問を感じました。人間らしさを持つのはどちらだろうか？

日本の子ども達は、親や教師の押しつけや、社会の大量生産大量消費の心が見えないシステム社会の中で、もしかして生まれながらに何もしなくても生きる力、いわゆる自主自立能力、生きる力を奪われているのではないだろうか。心の教育の核心ですね。

人間として、自然の中で家族や人々の中で生きる知恵よりも、もうけだけの為の無意味な知識をつめ込まれ、家族からもまわりからも孤立化され、もうけ社会に期待される一部の人間だけが受け入れられ、期待はずれの子どもの達は自分を失い非行に、また自分を責め不登校や挙げ句の果てに他の命を奪ったり、自ら命を絶つことで、それでも自分の生きる証を求めているのではないかと考えるようになりました。またオレだってひとかどの人間だと求めるあまり、認められない生活の中で、人を蔑み、人をいじめ、弱者やほみ出し者を笑うことで自分の存在を保つ子ども達も、まして大人も多い国ではと考えられてしかたありません。

今、日本の教育界で問題となるものが、心の病がラオスには1つもないではないか。日本の大人達もますます本来の生きる為の衣食住というより、自分の生きる人生のさらにその上に、よりハダな衣食住、不必要で他に誇る為、欲望の為だけの生活に走り、もうけに追われ、そのむなしさに疲れ果てている姿が思い浮かびます。

自分達が生きる為にするべき事をほとんどお金で他人にまかせるシステムを作り、流通を広げ、都市を造り上げ、大部分がサービス産業の中でもうけの為だけに働き、暮らし、遊ぶ為に、がまんして仕事をしているのが日本の姿ではないだろうか。

そんな中で生きがいを求め、むなしさを感じ本当の幸福や人間の生き方に気づき、自然に戻る人や、自給自足とはいかないまでも生産や栽培生活を求め都会から田舎へ移る人々が増えている事実、さらに人間本来の生命力を高める為に健康食や病気等に対する抵抗力を高める生活、つまり生き方と生活習慣を改める人が

多くなっている事実が何を証明しているのか、私には少しうれしく思える現象です。

ラオスの人々に触れ私もお金や賞罰、勝ち負けだけで働く人間から自然の中ですべての五感いや六感を働かせ、感じて動く、感動の多い人生に憧れを持つようになりました。

そんな中でもう1つ、日本人として現地で働くJICAを中心にした様々な援助に携わる人々にも多くを学びました。それは数ある支援を取り上げることとは別にして、援助と教育についてです。援助には援助する側と援助される側という関係があり、お互いを尊重した活動こそ保たれるべきであると強く感じました。ピエンチャンの町中には「ギブミーマネー」手を合わせる子どもや子どもを抱いた母親が物乞いする姿がたくさんあります。そんな時ひとりよがりの援助や、自分のむさぼりの為の支援であっては互いの人間を傷つけ、傷つくこととなります。現にラオスでは餓死する人や自殺する人はいなくて、いや必要のない生活が出来る、環境や生き方が備わっているのです。

他人の助けになることは自己の大きな犠牲を伴って成り立ち、しかも助ける相手によって、その存在のおかげで援助する側が自己の存在意義を与えられているという自覚、感謝の気持ちを互いに持つ関係が必要で、また援助をうける側はまず自分で「なんとかしたい」「ここまで自分でこう考えーこうやってー」「この部分は無駄な浪費や失敗をせずなんとかできないかー」という自ら意志と手段、方法の過程、努力の中での支援を求める姿勢こそが大切だと考えます。

自らの問題を自分でやるためにあくまでの支援であり、無意識であろうと悪意はないにせよ「かわいそう」「オレはいい人間と呼ばれたい」「助けてあげたい」だけの一念で他人の問題を横取りすることは本当の援助ではないと考えるようになりました。それこそ相手を見下ろした行為で傷つけ、さらに自分をも高慢な行為者として傷つけるものになり、それこそ互いの人間性や生きる力を奪う結果になるのではないだろうか。

人間として互いが尊厳を守り、保ち、犯し犯されない関係こそが大切な関係だと思います。これは何も援助だけに限らず、親と子、教師と生徒、政府と国民、すべて教える側と学ぶ側、人間と人間の関係に当ては

まることだと思います。

教育の本質は、押しツケやむさぼり等、独りよがりがかかりとおる社会や、そんな人間をつくることではない。そんな人間、社会こそがあの悲惨な戦争を生み出す最大の原因だと考えます。

いくら戦争の悲惨さや、独りよがりな正義、そして平和をどれだけ唱え、訴えても、いまだに人と人との争いは止むことを知りません。原因それは教育の本質、心の教育つまり如何なる行為に対しても、自分の心との対話と、その吟味なくして、真の平和は訪れません。

傍から見て不幸だと思っても、その人には尊厳があり、それが幸福であるという事実をラオスの人々、そしてそんな中で援助をする人々に学び、発見しました。物やお金が幸、不幸につながらないこと、無駄だ無意味だ、経済的だ効率がいいと考えない生活、援助が存在するし、それこそ人間らしい、自然な生活、関係では、平和への近道ではと考えるようになりました。

唯一の被爆国で、復興を経て経済大国と呼ばれる日本で生まれ、今、途上国と呼ばれるラオスでの2週間の体験、それまでに途上国から先進国へと変遷を遂げた、韓国での3年間の生活体験が私にはあります。そんな中でライフワークである、人間の尊厳について何度も考えさせられました。この地球のゆくえ、国の在り方、何よりも人間とは何かを強く考えるようになりました。

人間とは何か、つまりそれは、人間のルーツを求めたり、マクロの宇宙や、ミクロの遺伝子を調査研究する学問ではなく、人間の持つ心、命のはたらき、日本が忘れてしまった基本的な人間の尊厳、生き方、命のはたらきへの気づきの学習だと思います。

「命のはたらき」、まずその「連続」の中の自分、もちろん過去も未来までも含めた命を守りつづける生き方があること、命に値をツケ、その連続を絶つ今の日本の今だけ、此処だけ、自分だけの儲け主義、食生活や生き方に気づきました。

そして自然界のなかでの命の「連鎖」、すべての命は周りのたくさんの命によって支えられているという事実、命を無駄にして、うまい、きれいな、儲かると言って連鎖を保たず、地球環境まで破壊する人間だけの在り方に気づきました。

何よりも、如何なる武器や脅迫をもってしても、誰にも犯されない命の「尊厳」について深く考えるようになりました。経済優先社会が生きる力を奪い、自分を見失い、自分や他人を責める生き方、在り方を広め、人間の五感を鈍らせ、その尊厳を犯すことに気がつきました。日本のなかだけでは気づかない、根本的な人間として生き方、在り方を海外生活で学び、命のはたらきに気がつきました。

そしてこの命のはたらきに気づかず暮らしていると、人間が人間でなくなり、その結果自然が自然でなくなり、この一つしかない地球を壊すこと、人類を滅亡させることになるのではないかと考えるようになりました。

事実だけをそのまま伝える人は多いし、物もその方法も手段もたくさんありますが、私はあえてこの感動、気づきを皆様に伝えます。人は誰かの命令や、指図ではなく感じて動き、その行動が生活を変え、習慣を作り性格、人格を成し、さらに人生へとつながるし、自分のなかにある感性を磨くこと、いや、もって生まれた感性を鈍らさない、汚れた感性を清め、その生きる力、個々の可能性を引き出すことこそが、本来の教育の使命だと考えるからです。ラオスがこの私の信念を、さらに強固なものにしてくれました。

最後になりましたが、今回の機会を与えてくださった JICA（国際協力事業団）及びお世話になった現地事務所のスタッフの皆様、各地で活躍されている専門家や JOCV（青年海外協力隊）、シニアボランティアの皆様にも深く感謝いたします。

日本において、儲けのためだけの仕事をする人と違って、多くの専門家や JOCV の方々の日本と比べ、極度に苦難、不自由の多い生活のなかで、生き生きと活躍され、信念をもって語られる一つ一つの言葉の中に、本当に人間らしい、生かされている生き方、この国を背負っているという自信に満ちあふれた在り方、誰かのための自分に誇りをもって働く姿に、マラリアや Dengue 熱をもたらす蚊の恐怖も何のその、素晴らしい生きざまを、人間としての在り方を私達に示してくださいました。

この旅の本来の目的である、開発教育普及のための研修ですが、私は開発教育は教育界における国際理解教育や、人権、環境、平和教育などの、いま注目されている総合的学習の一つの柱のように、新しい分野としてとらえるのではなく、すべての教育活動に必要な原材料だと考えます。つまりあまり馴染みのない言葉故に、いま又新しい店が出来たのではなく、今までのいろんな店に必要な、電気やガスの働きになるもの、いわゆる人が生きるこの地球が生きるための教育が開発教育だと考えます。

そして電気やガス以前にまずもって大切な、水や空気のはたらきに気づかず、命のはたらきに気づかせる教育こそが、人間が生きるための教育であり、つまり全世界共通の、大人が果たすべき義務のある、義務教育だと考えます。

与えて感じる幸せ、与えられて感じる幸せを、一方通行ではなく、双方両方感じる関係が、本当の人間と人間の関係、国と国との友好関係だと考えます。

「人間とは何か」この心に刻まれた感動を糧に、今後の活動に、それを生き方に……。それが私のこれからの使命です。 コブチャイ ライライ（感謝）

結手

1999年8月7日

ビエンチャン 日程を終え帰国準備の途中ラオス最高級ホテル ノボテル202号室にて

1999年度 JICA 中学校教師派遣事業

派遣国 ラオス人民民主主義共和国

期 間 1999年7月27日から8月9日

派遣者 JICA 北陸支部参加 福田清志（数学）

所 属 加賀市立山代中学校

住 所 石川県加賀市上野町

電 話 0761-76-0044

事前授業感想(ワークシート)

3年4組
総合教育研究所 「イン加算ネット」

ワークシート テーマ **日本は豊かな国である** 【名前 **たにみやまおり**】

1. 四つの選択 (A) そう思う、B 思わない、C どちらも言えない、D わからない
 [理由] ・欲しいと思えば手に入る。
 ・が死してしまう人なんて、あんまりいないから。

2. ブレインストーミング

①. [テーマの中での問題点] ②. [①の理由、主な原因] ③. [②の改善方法]

・余日本に生れて、身の回りが**豊か**い
 ・①の中で**なにを**と思う
 ・②を**なんど**する方法

- ・ イツメ
- ・ ぬすみ
- ・ 人ごりし
- ・ 虫
- ・ 蚊
- ・ 水の上ごり
- ・ 景気が落ちる
- ・ 木があふない
- ・ 動物がいないくなる
- ・ 資源の使いすぎ
- ・ 水がきたない
- ・ 木のセリすぎ
- ・ 魚のセリすぎ
- ・ 川のコンクリート化

3. ランキングシート **日本がもっと**元氣**(豊か)になる9個の方法**
 (ダイヤモンドシート)

1	みんな仲よく	*一番必要な方法	その他グループ のNO.1 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分でその気持ちを持つ ・ 政治家の年齢を15才以上~40才以下にする ・ 世渡り競争して苦しみを取り除く ・ 悪事をしてない ・ 欲ばらない ・ 健康(体と心)を維持する ・ みんなでがんばる(みんなが裸になっスタートする) ・ 大都市への分かつ	
2	欲ばらない	お金お金と考える		
	やっぱりまだ差別があるから、なくす	昔のように年7-7!		
	景気をよくする			
9		*すればいい方法		

*オーストリアに学ぶ

4. 今回のテーマ **ほんとうの豊かさ** について感想、意見、これから考えたいこと

日本は、**いかに豊か**ではない。お金は必要だけど、必要でないところはない。

悪いことまでして、もうほけなくてほしい。

自然が**いかに豊か**か。

(一言アドバイス)

事前授業 1年6組

(※オス紹介なし)

総合教育研究所 「イン知賢ネット」

ワークシート テーマ「ほくしの豊かさ」 【名前 葉山 呆多由子】

1. 四つの選択 (A そう思う、B 思わない、C どちらも言えない、D わからない)
 【理由】戦争がすいけい犯罪いっは

2. プレインストーミング

①. [テーマの中での問題点] ②. [①の理由、主な原因] ③. [②の改善方法]

①. 今日本に生まれて身の回りに ②. 自然石皮壊

- | | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・不景気 ・犯罪多い(殺人) ・ケツオキニ ・自然石皮壊 ・オゾン層破壊 ・消費税増加 ・リストラ ・オウム事件 ・動物の糸色減 | <ul style="list-style-type: none"> ・森林を切り払って畑をつくる ・必要以上に木を切りたす ・ポイントする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・重た物を大ににする ・自然をいっはにする ・森林や木をきりやす ・毎に産業はいき物をいれない ・ポイントしない。 |
|--|--|---|

3. ランキングシート 日本が元気 になる9個の方法

(ダイヤモンドシート)

1 リサイクル生活重カ

*一番必要な方法

2 不景気改善

税3%にする

大よりよくなる

7

9

*すればいい方法

4. 今回のテーマ「豊かさ」について感想、意見、これから考えたいこと

日本はまだまだ豊かではない。戦争は日本にはないけれど他の国はいる。お金もなく、うえて死んでしまう人がいる。だからもううえて死ぬ人がいなくなるようにしたり、戦争をもうやめることをしたい。

(一言アドバイス)

4. 今回のテーマ 豊かさ について感想、意見、これから考えたいこと

日本は、利の身元は、豊かとけとこコースを見ても、不けりきかとか、ほんとい
だてりて、あまり豊かじやないこと分かる。これからどうしたら豊かになおはんと、よく分らり
いけど、大いに行たらいっしょうけんめい考えたいと思いう

4. 今回のテーマ ゆたかさ について感想、意見、これから考えたいこと

豊かさは自分自身のことなんだよー〇と思ひました。

豊かさは大事だと思いう。

豊かさは世界じや大事なのだ。

4. 今回のテーマ 豊かさ について感想、意見、これから考えたいこと

豊かさというのは、人間だけがかしてきなてらひとするのまはな
ちりり物や、植りり物なども、みりなマのりく生きていけることか
ゆたかさだと思いうの

4. 今回のテーマ ゆたかさ について感想、意見、これから考えたいこと

バランスが、オザグァー、けりき>かんきお?

4. 今回のテーマ 豊かさ について感想、意見、これから考えたいこと

どうせ、たらゴミさへるせるか。

(あてる人がいおくおるか)

以上

6/22

4. 今回のテーマ ゆたかさ について感想、意見、これから考えたいこと

日本は今、ゆたかさが少ないと思いう。これから日本はどうなるか。
家族は仲あ。

4. 今回のテーマ 豊かさ について感想、意見、これから考えたいこと

豊かさは、おんなかおなかよくくらすことかと思いう。

研究授業(ワークシート、感想文) 1999.11.22

5限、管理会
総合教育研究所 「イン加賀ネット」

ワークシート テーマ 日本は豊かな国である 【名前 濱谷 百合子】

1. 四つの選択 (A そう思う、B 思わない、C どちらも言えない、D わからない)
 [理由] 殺人が^{多い}あったり、かんきょうが^{わる}かったり、ホームレスが^{多い}たりする。
 ・た^いなもの^が多い^{状態}にある。

2. プレインストーミング

①、[テーマの中での問題点] ②、[①の理由、主な原因] ③、[②の改善方法]

- | | | |
|---|---|--|
| ・余日本に生れ、 ^身 の国が ^{嫌い} | ・①の中で ^{理由} NO.1を ^{思う} | ・②を ^存 ん ^た 改善 ^{する方法} |
| ・殺人 | | |
| ・はんざい | | |
| ・やくせりせい | | |
| ・びょうきに ^{かかり} | | |
| ・いっこころ ^が せれる ^か | | |
| ・せい金 ^が 高い ^わ からん。 | | |
| ・オウム | | |
| ・クイオキ ^し | | |
| ・成人 ^び ょう | | |

3. ランキングシート 日本がもと元氣(豊か)になる9個の方法 他^の7個^のNO.1
(ダイヤモンドシート)

1	争 ^い 、ゴ ^と を ^し ない	*一番必要な方法	・振興券 ^を と ^る (²⁷ 歳)
2	心	欲	・自給自足 ^{する} (^み ん ^ど)
	優 ^し さ	楽しく ^す こ ^す	・自然 ^を と ^り か ^へ ず (² か ^ら い)
	交流	消費 ^税	・欲 ^を な ^く す。 (^欲 が ^た い)
7	友情(愛)	*すればいい方法	・あ ^ら い ^を し ^な い (^か み ^ん ず)
			・薬 ^を 使 ^わ ら ^な い ^で 野 ^菜 を ^し る
			・誠 ^実 に ^な る。
			・心 ^を か ^え る。 (^ラ オ ^ス に ^み ん ^ど へ ^く)

*ラオスに^まん^ど

4. 今回のテーマ ほんごの豊かさ について感想、意見、これから考えたいこと

おもしろい、豊か^さと^かみ^から^ない

(一言アドバイス) 授業整理会(感想)

- ・ひろんな手^でも^考えても、心(生き方)に^関わ^ることが^最後に^問題^にな^るが^すい。
 - ・理由(考^え)を^はき^り言^える^子と^も違^や自^己(意^志)決^定権^を与^える^所が^良か^つた。
 - ・明るい雰囲気、楽しい授業が^基礎^にあ^る。教^ええ^る本^ので^はな^く(教^師も)学^ぶの^場だ。
- ★生きる力は^自分^に目^を向^け、心^と対^話する^この^力を^とり^とり^に学^んだ。

※ラオスに学んで

4. 今回のテーマ「ほんとうの豊かさ」について感想、意見、これから考えたいこと

ほんとうの豊かさは、金や物ではなく心などであることがわかった

※ラオスに学んで

4. 今回のテーマ「ほんとうの豊かさ」について感想、意見、これから考えたいこと

日本人は余裕があるから驚かしてはないのかと少し

※ラオスに学んで

4. 今回のテーマ「ほんとうの豊かさ」について感想、意見、これから考えたいこと

みんなよくばかり感えている人だなと、あらためて思った。

※ラオスに学んで

4. 今回のテーマ「ほんとうの豊かさ」について感想、意見、これから考えたいこと

物がたくさんあるだけじゃホントのゆたかさとは

言えないような気がした。

ホントの豊かさは、みんなが、しあわせになることだと思う。

※ラオスに学んで

4. 今回のテーマ「ほんとうの豊かさ」について感想、意見、これから考えたいこと

はきし言って「ほんとうの豊かさ」と言うのが分からない。

しかし問題は、それを自分で考えることだろうな。

※ラオスに学んで

4. 今回のテーマ「ほんとうの豊かさ」について感想、意見、これから考えたいこと

心の勉強と言えりば、とてもらうべきことなんだって思ふが正しい。
(ビートルズ) 下手なやつは早く上手いこと言うて上手い気がした。

※ なんか自分にできるかも(可能性が見える)

そう子供たちが怒ってくれたことに感謝!!